

「思想の科学研究会・春の公開シンポジウム」開催のお知らせ

2018年4月22日(日)

午後2時～5時(1時30開場)

# 『声をあげて、かっこよく、自分らしく生きる ——あたらしいデモ文化の旗手たち』

民間アカデミズム ⑤

<講師> 元山仁士郎、 望月塁

<司会> 和田悠



<参加費>1000円(研究会員は無料)

<開催場所>：杉並区産業商工会館 一階展示室 (杉並区阿佐谷南3丁目2番19号)

ここ数年、さよなら原発ウォークや国会前の安保法案反対デモ、ヘイトスピーチ等、様々なデモがおきていますが、音楽の導入やデモ割などデモの文化も震災を挟んで新しい形態へと大きく変わってきています。また、デモに参加する人たちのおもむきも大きく変化しています。

社会のうめき声の一つとして、このことを考える手がかりを探りたいと思います。今回は、素人の乱とシールズをとりあげ、そこに参加した人に、どのようにその動きと出会い、何を見て、そして、今、その体験をどのように考えているかということを中心にお聞きしたいと思います。

## 元山仁士郎 (もとやま・じんしろう)

1991年生まれ。沖縄県宜野湾市出身。国際基督教大学教養学部卒業。

現在、一橋大学社会学研究科修士課程に在籍。法政大学沖縄文化研究所奨励研究員。SEALDs(自由と民主主義のための学生緊急行動)やSEALDs RYUKYUの立ち上げ/中心メンバー。ND(新外交イニシアティブ)で事務局スタッフとしても働く。

著書：小森陽一、黒澤いつき、元山仁士郎、西郷南海子『あきらめることをあきらめた71年目のデモクラシー』(かもがわ出版2016年)、北川直実ほか『若者から若者への手紙 1945←2015』(ころから、2015年)。

## 望月塁 (もちづき・るい)

1979年生まれ。埼玉県南巨摩郡出身。帝京大学文学部出身。

「トリオフォー」界限から高円寺に出発しはじめ、素人の乱の初期の頃から関わる。現在は、素人の乱 11号店浦野商店番頭として、活躍中。

【問い合わせ】思想の科学研究会

〒169-0074 東京都新宿区北新宿1丁目30-30-801 TEL03-5389-2101